

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 鳥獣被害防止対策県活動事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111(内4172)
E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 50,000 千円 (前年度予算額： 50,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	50,000	50,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	50,000	50,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 県内における野生鳥獣による農作物被害額は2億円程度で高水準で推移しており、被害の約7割を占めるイノシシ、シカ、サルに対し、効果的な対策の実行と検証が喫緊の課題である。
- 被害防止に関する野生鳥獣の個体数調整捕獲を行い、農作物被害を軽減する必要がある。

(2) 事業内容

<サル>

- モデル地区を設定し、地域住民等の協働によるサル対策を実施体制の整備
- 効果的な捕獲活動に向け、専門家派遣による研修会開催や指導・助言を実施
- サルや多獣種に有効な被害防止対策の実証

<シカ>

- 被害防止に関する個体数調整のための広域捕獲を実施

<カワウ>

- ①カワウのGPSロガー装着による飛来動向調査
 - 「岐阜県カワウ管理・被害対策指針」に基づくカワウ対策を推進するため、県内に生息するカワウにGPSロガーを装着し、飛来動向を調査
- ②大規模コロニーでのカワウ捕獲
 - 大規模なカワウ繁殖地において、広域捕獲を実施
- ③カワウ河川飛来数調査
 - 県内河川におけるカワウの飛来数等を調査

- ④ コロニーの生息動向調査
 - 県内に点在するコロニー等におけるカワウの生息状況等を調査
- ⑤ ドローン活用による省力的なテグス張り対策の実証
 - 河川・漁場におけるカワウ防止のためのテグス張り作業について、ドローンを活用した作業労力の大幅な軽減を実証

（３）県負担・補助率の考え方

国の事業要綱・要領に基づいて補助。県による負担分はなし。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	520	講師謝礼
旅費	205	講師旅費
需用費	4,258	被害防止対策資材費
使用料	142	会場使用料
委託料	44,875	広域捕獲、捕獲体制の実証、カワウ生息に関する調査・捕獲
合計	50,000	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

- ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）（～令和12年度）
- 市町村被害防止計画
- 岐阜県カワウ管理・被害対策指針（令和5年1月策定：令和5～14年度）

（２）国・他県の状況

- 鳥獣被害防止特措法の改正において、県が必要な措置を講じることが明記。
- 令和８年度の国交付金については、都道府県による広域的な捕獲活動に対する支援を含め、国において前年比118%となる約118億円の概算要求がされている。
- 令和７年度と同様、県からの要望額どおりの配分がされる見込みは少ない。（令和７年度の配分額は要望額の約70%）。

（３）事業主体及びその妥当性

本県における野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、県が主導して対策を実施する必要があり、妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

令和8年度当初予算

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

<サル>

・効果的な対策を実証し、被害集落への普及により、農作物の被害軽減を図る。

<シカ>

・市町村からの要請により、県主導の広域捕獲を実施し、捕獲活動を補完。

<カワウ>

・大規模コロニーでの広域捕獲や河川での捕獲・追い払いにより、令和4年度時点の「夏季のカワウ生息羽数」を令和14年度までに半減させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
① サル対策モデル地区数（県）	-	-	-	1	1	-
② シカ捕獲数	17,249	17,249	15,000	15,000	15,000	115%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<サル> 重点3地区に専門家を派遣し、住民等の協働によるサル捕獲体制を構築。
	<シカ> 市町村からの要請により、個体数調整のための広域捕獲を実施。 （1市3町を跨ぐ広域捕獲）
	指標①（ニホンザル実証対策の実施地区数） 目標：3地区 実績：3地区 達成率：100% 指標②（ニホンシカ捕獲数） 目標：15,000頭 実績：19,871頭 達成率：132%
令和5年度	<サル> 重点4地区に専門家を派遣し、住民等の協働によるサル捕獲体制を構築。
	<シカ> 市町村からの要請により、個体数調整のための広域捕獲を実施。 （1市3町を跨ぐ広域捕獲）
	指標① 目標：3地区 実績：4地区 達成率：133% 指標② 目標：15,000頭 実績：16,887頭 達成率：112%
令和6年度	<サル> 重点5地区に専門家を派遣し、住民等の協働によるサル捕獲体制を構築。
	<シカ> 市町村からの要請により、個体数調整のための広域捕獲を実施。 （1市3町を跨ぐ広域捕獲）
	指標① 目標：4地区 実績：5地区 達成率：133% 指標② 目標：15,000頭 実績：17,249頭 達成率：115%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価)	<サル>被害軽減に向け、地域ぐるみの取組モデルの構築が必要。 <シカ>農林業や自然生態系への影響を低減させるため捕獲強化が必要。 <カワウ>生息分布域が拡大しているため、広域捕獲等の継続が必要。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	<サル>専門家派遣により、地域住民等による取組体制を構築できた。 <シカ>農林業や自然生態系への影響を低減させるため捕獲強化が必要。 <カワウ>カワウは季節移動により県外から流入しているため、分布域及び生息羽数の拡大を防止するため、対策の継続が必要。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	<サル>専門家による指導・助言により、効率的な支援となっている。 <シカ>広域捕獲業務を外部委託することで効率化が図られる。 <カワウ>県内最大級の大規模コロニー2か所(鷺田橋下流・千本松原)における広域捕獲を外部委託することにより、効率的な実施方法となっている。

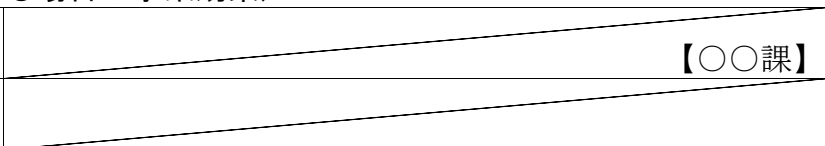
(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 獣種別の対策モデルを構築し、被害軽減対策を進める必要がある。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・被害集落での効果的な技術を実証し、効果が見込まれる技術の普及を図る。 ・加害鳥獣の生息状況、被害状況に応じた必要な対策を実施する。 ・カワウの分布域及び生息羽数が拡大し、漁業被害が深刻化しているため、継続して対策を実行する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	

【〇〇課】